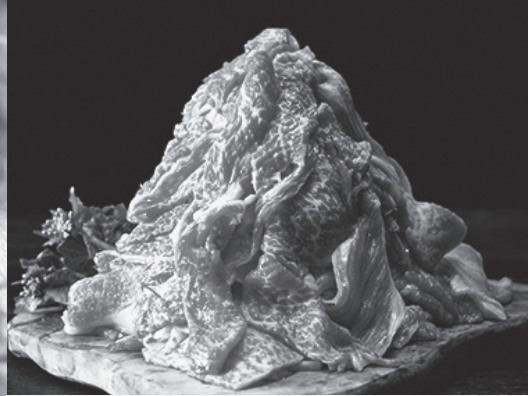




ふるさと納税が町にもたらすもの

～地域産業振興と協働人口の創出～

ふるさと納税は「生まれ育ったふるさとに貢献できる制度」、「自分の意思で応援したい自治体を選ぶことができる制度」として平成20年に創設されました。創設当初の寄附金額は全国で年間81.4億円でしたが、令和4年度には9654.1億円まで増加し、ふるさと納税を活用するかたが増えていることがわかります。

本町ではこの制度を活用し、地域産業の振興を図るとともに協働人口（ファン）の創出に取り組んでいます。また、いただいた寄附金は教育や観光・交流などの分野で活用しています。今回はふるさと納税の取り組みとその活用についてご紹介します。



特集 ふるさと納税が町にもたらすもの ～地域産業振興と協働人口の創出～

本町のふるさと納税

本町では制度が創設された平成20年からふるさと納税を導入しており、当初の寄附金額は年間157万円でした。その後、平成27年から寄附に対する返礼品を開始し、令和4年度の寄附金は1億5811万2222円となりました。

返礼品は、町内の生産者や事業者のかたにご協力いただき、多種多様な品、サービスを用意しています。町内産の牛肉や地鶏、お米、山菜、地酒といった食品やつる細工、衣料品などのほか、墓地清掃や草刈り、除雪といった町内出身でなかなか帰省できないかた向けのサービスもあります。また、温泉の入浴券やマタギとのトレッキング体験、森林セラピー、つる細工体験といった最近注目を集めている体験型返礼品も準備しています。

地域産業の振興と
知名度向上の手段として

本町では小国の美味しいものや、素敵なもの、楽しいことなどを知ってもらい、小国町に興味を持っていただけるような返礼品の開発に取り組んでいます。

令和4年4月には地方創生人材支援制度を活用し、サントリHD株式会社から小国町に出向している常田昌志産業振興課白森ブランド戦略専門員にその取り組み状況について聞きました。

「ふるさと納税の返礼品としては全国的に牛肉やお米、フルーツなどが人気です。小国町でも米沢牛が主力商品になっており、提供いただいている渡部畜産の渡部さんと話し合いを重ね、期間限定商品や繁忙期ではない時期に牛肉を定期配送するプランを用意するなど、返礼品のバリエーションを増やしています。」

町には米沢牛以外にも魅力的な産品が数多くあります。ふるさと納税を通じて、その魅力に気づいてもらえるよう返礼品の種類や数の増加に取り組んでいます。

例えば、お米についてはご協力いただく事業者が3社から5社に増え、取り扱い銘柄が充実しました。また、大谷農園の大谷さんにご協力いただき、メロンとシャインマスカットも提供できるようになりました。

小国町は山菜が有名なので、ふるさと納税でも力を入れていると思います。今までは加工品を中心に取扱い

ましたが、山形おぐに自然農園の渡邊さんが自ら手を挙げ



▲常田昌志白森ブランド戦略専門員

てご協力くださり、新たにタラの芽や青こごみといった生の山菜を出せるようになりました。

また、小国町森林組合と取り組んでいる生わらびの先行予約は今年で3年目となり、前年を超える予約をいただくことができました」

返礼品を増やすためには、新たな事業者との連携が不可欠です。その際に協力いただいているのが(株)小国町地域総合商社です。同社は返礼品を提供する一事業者であるとともに、町内事業者との架け橋にもなっています。

「小国町地域総合商社には、町内事業者のかたを紹介いただき、それにより新たな返礼品の提供にもつながっています。また、返礼品の配送も担っています。ふるさと納税では、返礼品の品質はもちろんのこと、配送等の対応も重要です。確実な配送やトラブル等が発生した際の

特集 ふるさと納税が町にもたらすもの ～地域産業振興と協働人口の創出～

迅速な対応が、リピーター獲得に繋がります。同社には、お客様対応や提供事業者とのやり取りなどで、きめ細やかなサービスを提供いただいています」

ふるさと納税は「自分のふるさとに貢献できる」、「自分の意思で応援したい自治体を選ぶことができる」制度です。自治体がこの制度に取り組む必要性について常田専門員に聞きました。

「少子高齢化や人口減少により、全国的に地域経済が縮小し、衰退に向かっています。それを食い止める手段として、地域の産品を外に売り出すことや、観光等で町外のかたに小国町を訪れてもらうことなどが挙げられます。地域の産品を町外のかたに知ってもらい、その魅力を伝え、売り込む最も有効的な手段のひとつとしてふるさと納税を位置づけています。しっかりと取り組むことで町内経済活性化の

一端を担えると考えています。また、ふるさと納税を通じて町のPRを積極的に行うことにより、町の知名度を向上させ、観光の誘致に繋がるという効果も期待できます」

ファンの拡大を目指して

ふるさと納税は、町内生産者、事業者の振興やファンを増やすことも目的としています。

平成27年からご協力いただいている桜川酒造株式会社の上村友梨さん（宮の台）にふるさと納税に対する思いを伺



▲桜川酒造の上村友梨さん

いました。

「桜川酒造では「小国桜川」のある食卓を100年先にも繋げていく挑戦をしています。ふるさと納税をきっかけに、全国のかたに私たちの取り組みを知っていただき、桜川酒造のファンになってもらいたい。そして、私たちが造る日本酒を未来に繋げていきたいという想いで協力しています。返礼品については日本酒に馴染みのないかたも、日本酒好きのかたも楽しんでいただけるよう、小国産の酒米で作った飲みやすい純米酒と、手間暇かけて作った香り高い純米大吟醸を中心にセレクトしています。ぜひ全国のかたに味わっていただきたいです。



▲桜川酒造の返礼品

いま、新しい形の返礼品をふるさと納税の担当者のかたと検討しています。どのようなものになるのか、ぜひ楽しみにしていただきたいと思います」

ふるさと納税から

常連さんへ

「ふるさと納税でぐに木酢米を知ったかたから直接注文が入るようになり、そこから常連となってくれたかたもいます」とお話ししてくださいましたのは、返礼品としてつや姫や雪若丸を提供いただいている小国木酢研究会の石垣和洋さん（田沢頭）です。実家の農業を継ぐため、5年前にUターンし、専業農家となりました。

石垣さんが作っている「ぐに木酢米」は清らかな水と有機土壌で育てられ、化学合成農薬や化学肥料を節減し、木酢液によって病害虫を抑えています。石垣さんの父であ

特集 ふるさと納税が町にもたらすもの ～地域産業振興と協働人口の創出～



▲田植え作業に取り組む石垣さん

る正憲さんが育てたおぐに木酢米「つや姫」は平成24年、新嘗祭に献穀されました。その時と同じ栽培方法で手間暇かけて育てられたお米は高品質で、ふるさと納税でそのお米を食べたかたから「美味しかったのでリピートしたい」と感想も寄せられています。

令和2年からはふるさと納税による新米の先行予約にも取り組んでいただいております。「美味しく、形のいい米になるよう日々、手塩にかけて育てています。ふるさと納税を通じて、ぜひ全国のかたに食べ



▲おぐに木酢米「つや姫」



▲石垣さんが育てる田

ていただきたい」とお話しくださいました。

本町ではおぐに木酢米のほか、小国産の美味しいコシヒカリやはえぬきなど、合計6銘柄を返礼品として用意しています。

ふるさと納税の詳細はこちらから



まちづくりへの活用

ふるさと納税でいただいた寄附金は町の様々な事業に役立てられています。

児童・生徒を対象とした学習会や各種セミナーを実施する白い森学習センターの運営やタブレットを使ったICT授業の支援といった教育分野での活用のほか、観光・交流事業の推進や観光施設の管理といった観光分野、鳥獣被害対策、除雪対策にも活用されています。

令和2年度からは町内の若者がまちづくりにについて考える「小国☆地域みらい塾」の運営や、そこで生まれたアイディアの実現を支援する「ワカモノプロジェクト補助金」にも活用されています。冬季に開催されている「雪のお城」や移住者コミュニティつむぐによる「つむぐマルシェ」なども立ち上げの際にはワカモノ

プロジェクト補助金の支援を受けました。

このようにふるさと納税は、本町のまちづくりを支えるとともに、新たな魅力の創出にも繋がっています。

現在、多くの自治体が発ふるさと納税を実施しています。その中から本町を選び、応援してくださるかたがたに感謝するとともに、より多くのかたに小国町のファンになっていただき、応援していただけるよう、これからも魅力あるまちづくりに取り組んでいきます。

ふるさと納税の使いみち

- ・保小中高一貫教育の推進
- ・学校・家庭・地域の連携による教育の展開
- ・雪に強いまちをつくるための除雪体制の確保
- ・高齢者世帯等の除雪支援
- ・有害鳥獣被害への対策
- ・町を活性化するイベント等への支援
- ・観光施設の管理運営 など